

株式会社 prize
代表取締役

友安 真琴

学業を終え人材派遣業界に入った友安社長は、
そこで業界の面白さを教えてくれた上司と出会い、仕事にのめり込むようになった。
「親身になって接してくれた。だから期待以上の仕事で応えたいという思いを抱いた」
まさに「一期一会」の出会いで、社長の人生が大きく転換した瞬間ではないだろうか。
その後も多くの出会い、縁に支えられ『prize』を設立、経営者として歩み出した社長。
これからも出会いに感謝し、多くの人と交わりながら成長を続けていく。

「真っ直ぐに人と関わり、
支え合う事で温かみのある人生を創る」

人と支え合い、成長を続ける 多種多様な事業を通じて

代表取締役

友安 真琴

×

タレント

つまみ枝豆

株式会社 prize

大阪府大阪市淀川区東三国 4-10-2 EG 新御堂 5 階

URL : <https://prize.co.jp>

『prize』は、人財サービス事業を軸にイベントプロモーション事業、ビジネスパートナー事業と幅広く事業を手掛けている新進気鋭の会社である。同社を率いる友安社長は、従業員を始めとする周囲の人々を尊重し、皆にとってより良い会社を作っていこうと邁進する経営者だ。本日はタレントのつまみ枝豆氏が同社を訪問し、社長にインタビュー。社長のこれまでの歩みを交えたお話を伺った。

—まずは、友安社長の歩みからお聞かせください。ご出身はどちらですか。

京都府亀岡市出身です。大学を卒業するまで地元で過ごしました。幼いころはサッカー選手を目指してサッカーに打ち込んでいました。小学校では全国大会に出場した経験もあるんですよ。

—それはすごい。学業修了後、社会への第一歩はどのような業界に？

地元の先輩の紹介で大阪へ行き、今につながる人材派遣会社に就職。大阪支局へ配属されました。当時の私は正直なところ、スーツを着て仕事をするのは嫌だ

なと思っていました（笑）、すぐに見切りをつけ、やりたい仕事に移ろうかなという思いがあったのです。しかし入って2日目に、この仕事にはまってしまいました。この仕事がとてもおもしろかったこともあります。上司にも惹かれたことも大きいと感じます。

—ほう、たった2日で。上司の方の、どういうところに惹かれたのでしょうか。

学生時代は少々わんぱくな方で、勉強も苦手だった私を気にかけて、見捨てずに温かく育ててくださったのです。そのように親身になって面倒を見てくださったので、期待以上のものを返したい、その思いに報いたいという強い思いが芽生え『自分に与えられた仕事は、想像以上の結果で応えなければ！』と思えたんです。また、やるなら一番を取りたいと思い、頑張った結果、23歳のころに、上司と同じ責任者というポジションに最年少最短で就任できたのです。

—なんと！ 最短で出世されたとは頑張りましたね。

当時トップの成績を持っていた上司に「俺の数字を越えたら、1個、役職を渡す」と言われましてね。私は本気で取り組んで、上司の倍の数字を出すことができ、

役職のポジションをいただけました。この役職を経験したことが今にもしっかりと活きていると感じますよ。

—社長は当時から独立心はあったのでしょうか。

ええ。独立したいとの思いはずっとありました。当時から支局長にもこうした思いを伝えて、筋を通してきたのです。そこから紐付くクライアントさんも含めて、すべての人から理解を得てスタートしたのが28歳の時です。前職で出会った妻や、先に独立を果たされた上司など、多くの人に背中を押してもらいました。周りの方の理解を得ながら、一緒にやりたいと思えるメンバーに声を掛けたところ、本当にありがたいことに皆付いて来てくれて。前職からのつながりの他、ついてきてくれた従業員の友人・知人も来てくれましてね。現在では若手を中心に、アルバイトを含めて30名ぐらいが当社で働いてくれています。

—それだけ人望があったということでしょう。

本当にありがたいことと感じています。だからこそ関わってくださる皆さんを裏切るような真似はできませんし、同時に大事にしたいと思っています。また私は人との出会いには人生を左右する力があると考えています。仕事だけのつながりにとどまらず、プライベートなども含めお互いに人間として成長できるようにしたいのです。どんな人であっても笑顔になる瞬間があるはず——人と接する際は互いに笑顔になることを意識しています。そうすれば、きっと話しにくいことでも話してくれると思います。

—本当の信頼関係を築いておられるんですね。そんな御社ではどのような事業を手掛けているのでしょうか。

現在は大手通信商材を量販店や携帯ショップにて販売営業する事業をメインに手掛けております。当社は「人財サービス事業部」「イベントプロモーション事業部」「ビジネスパートナー事業部」の3つの事業柱があります。「人財サービス事業部」がしっかり会社の基盤を作り、そこで培ってきた信頼を以て、未開拓の事業にもチャレンジしているのです。

—社長は独立前から、事業の多角化についても、ある程度考えておられたのですか。

ええ。勤め時代から周囲に「こんな仕事がしたい」「もっと人の管理側に回りたい」と考えている方が多く、中には独立を視野にステップアップしたいと思っているなど、皆さん野心に溢れていると感じましたね。ですから幅広い事業を手掛け、当社を巣立っていく人がいれば、そのサポートがしたいと考えているんです。当社の社名である「prize」という言葉には「尊重する」「大事にする」などの意味があります。人にまつわる家族や仲間、笑顔、時間、信頼をずっと大事にする会社でありたいという思いを込めてこの社名にしました。皆の力あってこそその当社。皆を尊重し、皆の頑張りに報いることができるように、しっかり還元したいです。

—社長の、周囲の方々への思いがよくわかりますよ。では今後3年後、5年後の中期的な夢、目標をお聞かせください。

人材事業での「一般労働者派遣事業許可」を取得し、さらに業種を拡大していきたいです。コロナの影響もあり、派遣の需要は、まだまだ伸びしろがあると私

は確信しています。アフターコロナ、ウィズコロナと呼ばれる時代も本格的に始まれば、様々な業界の方々との交流もさらに増えると考えていますので、同じ立場の人との関わりも増やしていきたいと思っています。

また、今期は3期目ですが先々を見据えて社労士さんへ相談を重ね、更なる福利厚生の実現へ取り組んでいこうと考えています。安心安全でより良い雇用環境にしていく為にも、5年後には年商10億円企業に当社を成長させていきたいです。今手掛けている事業を軸に、人を中心とした業務運営に注力しながら、その信頼関係で結ばれた組織力を強みとして、チャレンジし続けたいです。しかし先走って売り上げだけを追うことなく、「人を大事にすること」「周囲を尊重すること」という初心も忘れずに、これからも全力で邁進していく所存です。

(2021年11月取材)

guest interviewer



「人と交わることが好きで、人のための事業を手掛けたい」と話す友安社長。実際に異業種にて独立を果たされた部下の方とその後交流を図り、支えになれたらと考えているのだとか。そうした人情の深さが社長の魅力であり、強みなのでしょうね！」 つまみ枝豆・談

10年後も「自分」を貫く

▼8年勤務した人材派遣会社での経験、幼少期からサッカーに打ち込み、チームの主将を務めた経験を持つ友安社長。この経験から「自分の与えられたポジション、仕事に全力で励み、全うする」という情熱が培われたそう。

▼現在は「prize」を設立し事業成長に尽力する社長だが、他にも、ここまで不自由なく子供を尊重し真っ直ぐに育ててくれた両親を1番に尊敬し、いずれは「親父が手掛ける事業も絶対に残してあげたい」と社長は語った。

▼対談の最後に「10年後のご自分に何か一言ありますか」と社長に問うと、「より多くの人たちを支え、そして支えられる人であってほしいと思います」と答えてくれた。10年後も変わらず「自分」を貫く——そんな強い意思が窺えた。

